

■ 2012年 9月号 月1回発行 114号

■ 発行所：東京都港区芝浦3丁目2番22田町交通ビル
東京平和運動センター

■ 発行人：本橋 益男 TEL・FAX 03-5443-4110



7.16「さようなら原発集会」に17万人【代々木公園】

目	次
原水禁世界大会	2
原水禁大会 大会宣言	4
オスプレイ配備反対	5
三多摩反核座り込み 400 回集会	6
活動報告	7
今後の日程	7

被爆67周年 原水爆禁止世界大会開催

「核と人類は共存できない」

ノーモア福島→ノーモア広島→ノーモア長崎

被爆67周年原水爆禁止世界大会が7月28日の福島大会を皮切りに、8月4日から広島、7日から9日まで長崎で開催されました。

【福島大会】

7月28日、福島市の福島県教育会館で「被爆67周年原水爆禁止世界大会・福島大会」が開かれ、福島県内や全国から1050人が参加しました。昨年3月の東京電力福島第一原発事故を受け初めて開催した昨年に続き二回目の開催。

主催者あいさつに立った川野浩一・大会実行



委員長（原水禁議長）は「原発事故の原因究明もされない中で大飯原発を再稼働させた野田政権は無責任だ。二度と

悲惨な原発事故が起きないようにするには全ての原発を止めるしかない」と呼びかけました。開催地を代表し、福島県平和フォーラムの五十嵐史郎代表は「いまなお16万人が避難生活を強いられ、さらなる原発事故の危険性が続いている。この悲惨な状況を忘れないでほしい」と訴えました。

基調提起を藤本泰成・大会事務局長が行い「福島から始まり、広島、長崎へと続く今年の大会は、核社会を問う大会にしたい。福島原発事故から脱原発へ舵を切ろう。そのために原発再稼働を許さず、政府が進める新たなエネルギー政策として2030年の原発依存度を0%にさせよう」と提起しました。

元原子力プラント設計技術者の後藤政志さんが「福島原発事故と再稼働の危険性」と題して講演。「未だに事故は収束していない。使用済み燃料を取り出す作業だけでも十数年の時

間が必要だ」などと事故の深刻さを語り、「地震国日本で安全な原発はない。また、放射性廃棄物の処理は見通しが立たない」など、原発の危険性を強調しました。

次に医師で、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援を続ける振津かつみさんが「チェルノブイリの経験からも、低線量でも被曝の健康リスクがある。広島、長崎の被爆者運動の経験にも学び、国家補償に基づく被災者への総合的な援護を」と講演しました。大会後、参加者は福島市内をデモ行進し、「原発のない福島を」などと訴えました。

【広島大会】

8月4日から6日にかけて、「広島大会」が開催されました。最初に広島国際会議場で開かれた開会集会では、主催者あいさつに立った川野浩一・大会実行委員長（原水禁議長）は「67年経ってもヒバクシャは多くの問題を抱えている。さらに福島原発事故は深刻さを増している。核廃絶のためにも原発をなくすことが必要だ」と訴えました。

東京からの参加者約300名は平和公園から折



鶴平和行進に合流、約2000人の参加者とともに「核兵器をなくそう」「ヒバクシャの権利を」

などとともに「原発震災をくりかえすな!」「再稼働を許すな!」などと、シュプレヒコールや横断幕でアピールしました。

（核兵器廃絶 2012 平和ヒロシマ大会）

夕方からは県立総合体育館で、原水禁・連

合・核禁会議の主催による「核兵器廃絶2012平和ヒロシマ大会」が開かれ、6500人が参加しました。主催者あいさつで連合の古賀伸明会長は核兵器の廃絶に向けた取り組みとともに、原発問題について「連合は最終的には原子力エネルギーに依存しない社会をめざす」と述べました。来賓として、中下善昭広島県副知事、松井一實広島市長、スティーブン・ベネディクトITU C局長があいさつしました。

被爆者からの訴えでは、広島県原発被害者団体協議会の箕牧智之事務局長が、3歳で被爆した経験を語った



後、「福島原発事故で新たなヒバクシャを作ってしまった。将来、もし子ども達に障害があれば、その責任を問おう」と強調しました。平和アピールを採択した後、閉会あいさつに経った川野浩一原水禁議長は「原発事故を契機にエネルギー政策のあり方を考え直してほしい」を呼びかけて、大会を終了しました。

【広島大会まとめ集会】

二日目は各分科会などが開催され、三日目の8月6日には8時15分に黙祷し、まとめ集会が開催されました。

広島大会のまとめを藤本泰成・大会事務局長（原水禁事務局長）が行い「原発や公害に代表されるような、人々の犠牲の上に立った経済や政治から転換しなければならない時代だ。脱原発と再生可能エネルギーの拡大、核廃絶、ヒバクシャの権利拡大など、私たちの運動の正しさに自信を持って、新しい社会をめざそう」と呼びかけました。

「67年前のヒロシマの経験を原点に、さらにフクシマを胸に刻み、核も戦争もない平和な21世紀を子ども達に贈ろう」とのヒロシマアピールを採択して、広島大会を終了しました。

【長崎大会】

「被爆67周年原水爆禁止世界大会」は8月7日から長崎大会が開かれ、「オスプレイ配備と

原発再稼働は許さない！脱原発！脱基地！ナガサキ集会」からスタートしました。福島原発が収束しない中で大飯原発の再稼働が強行され、さらにアメリカの海兵隊が沖縄・普天間基地に危険なオスプレイが配備されようとしていることに反対して、長崎へ原爆が投下された爆心地公園で開催されました。集まった1200人の参加者は、脱原発と脱基地を一体のものとして取り組みを進めることを確認し、集会後、「すべての原発を廃炉にしろ！」「オスプレイの配備を許さない！」などとシュプレヒコールをしながら、デモ行進を行いました。

連合・原水禁・核禁会議主催の「核兵器廃絶2012平和ナガサキ大会」は県立総合体育館を会場に、4500人が参加して開かれました。

開会あいさつに立った川野浩一原水禁議長は「福島原発事故を契機にエネルギー政策をどうするか真剣に考えなければならない。そうした中、政府は、原子力基本法で核兵器開発につながる改訂を行った」と厳しく批判しました。また、連合の南雲弘行事務局長は核廃絶やヒバクシャ援護政策とともに、「中長期的には原発依存を減らし、最終的には原発に依存しない社会をめざす」と述べました。来賓の中村法道長崎県知事、田上富久長崎市長、海外来賓として、国際労働組合総連合（ITUC）のスティーブン・ベネディクト人権・労働組合権局長のあいさつに続いて、被爆者の訴えとして、長崎県被爆者手帳友愛会の中島正徳会長が15歳で被爆した経験を語り



ました。

毎年、高校生が国連の欧州本部を訪ね、核廃絶の署名を提出して要請

する「高校生平和大使」の今年の代表に16人が選ばれ、大震災で被災した岩手県立釜石高校の菊池のどかさんが「国際的な支援にも感謝しながら、核兵器の廃絶を訴えたい」と決意を述べました。

大会宣言

ヒロシマ・ナガサキに原子爆弾が投下された67年前の8月6日と8月9日。生きとし生けるものすべてに未曾有の悲惨で残酷な破壊をもたらした実相と、放射線障害に多くの人たちを苦しめてきた体験を忘れてはなりません。私たちは毎年、被爆地に集い、あの日のことを語り継ぎ、再びヒバクシャを生み出さないことを誓ってきました。しかし、2011年3月11日の東日本大震災で生じた東京電力福島第一原発事故は、1年5ヶ月近く経っても未だに収束せず、各地に飛散した大量の放射性物質による環境汚染は、人々から故郷を奪い生活の基盤と雇用を奪い、新たにヒバクシャをつくりだしました。私たちは、事故をふせげなかったことに、強い反省と憤りを感じます。

福島第一原発事故は国策による「人災」です。経済優先の中で原発政策を推進し、安全性をないがしろにしてきた東電などの電力会社、歴代政府、そしてそれを支えてきた研究者、報道関係者の責任は重大です。東電・政府に対し、事故の謝罪はもちろん、現在の生活や将来の健康への保障をはじめ、「国家補償」の精神に基づく3つのホショウ（補償・保障・保証）を求めています。

7月16日、東京代々木公園の「さようなら原発10万人集会」に史上最大17万人の結集、800万筆に達した「さようなら原発署名」をはじめ、日本全体で脱原発への動きが強まっています。にもかかわらず野田首相は昨年12月に福島第一原発事故の収束宣言をだし、今年7月には事故以来停止させていた大飯原発3・4号機を再稼働させました。脱原発への想いと世論を踏みにじる行為であり、強く抗議します。原発推進派は、大飯につづき、柏崎刈羽をはじめ各地の原発で再稼働をねらっており、許してはなりません。もっとも危険なプルトニウムを利用する、高速増殖炉「もんじゅ」および核燃料再処理工場を廃棄させましょう。原発の新規計画を中止し、浜岡をはじめ既存の原発を廃炉にさせましょう。

脱原発を実現し、自然エネルギーを中心とした社会をめざすことが求められています。省エネルギー・自然エネルギーを中心に据えた、エネルギー政策への転換を早急に始めさせましょう。政府が「国民的議論」のため提示した2030年の原発依存度の3つの選択肢のうち「0%」に市民からの圧倒的な声を結集しましょう。「さようなら原発1000万人アクション」を全力で成功させましょう。

オバマ大統領の「核兵器なき世界」声明などに呼応したNATO（北大西洋条約機構）の「消極的安全保証」導入などの前進の一方で、米国は臨界前核実験の継続や、早期発効が求められる包括的核実験禁止条約（CTBT）の未批准などの問題をかかえています。日本も、政治家の「潜在的な核抑止力」発言や原子力基本法への「安全保障に資する」との記述など、プルトニウム保有と関連して核拡散・核武装に関わる危険な動きが起きています。核兵器廃絶への動きを加速させるためにも、平和市長会議の「2020ビジョン」などと連携したとりくみをいっそうすすめ、被爆国である日本が米国の「核の傘」に依存するという矛盾した政策を脱却させ、「核兵器を作らず、持たず、持ち込ませず」の非核三原則を明記した非核法を一日も早く制定し、「東北アジア非核地帯」化に向けてとりくみを強化しましょう。沖縄県民にオスプレイ配備など米軍基地の重圧を強いる施策を止めさせましょう。

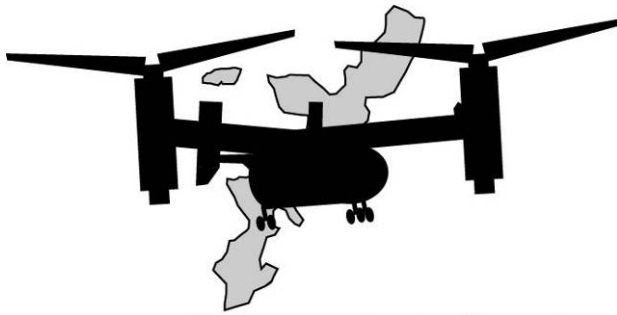
ヒバクシャをめぐる課題は、いまでも、被爆体験者、被爆二世・三世、在外被爆者、原爆症認定など、いまだに支援を求める多くの被爆者が残されたままです。被爆者は高齢化しており根本的解決が急務です。国交のない在朝被爆者はまったく放置されています。被爆二世・三世や被爆体験者については、支援の充実とあわせて、被爆者援護法の対象とすること、日本の戦争責任と戦後補償の問題として国家補償を明記する改正を求めましょう。

核被害に「軍事利用」「商業利用」の区別はありません。原水禁初代議長の森瀧市長さんが1975年に提起した「核と人類は共存できない」「人類は生きねばなりません。そのためには『核絶対否定』の道しか残されていない」という原水禁運動の原点をもとに、私たちは、核被害を根絶するため、核社会・核文明を問い、フクシマの地で苦しむ人たちや、世界のヒバクシャと連帯し、暴力と殺りくが繰り返される世界を変え、対話と共存・命の尊厳を基本にした「核も戦争もない21世紀」を実現し、子どもたちに贈るとりくみを全力ですすめます。

あらためて私たちは宣言します。核廃絶は可能だ！
そして、脱原発は可能だ！

ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・フクシマ、ノーモア・ヒバクシャ、さようなら原発！

2012年8月9日
被爆67周年原水爆禁止世界大会



NO!! オスプレイ 沖縄配備

9.9 オスプレイ配備に反対する

沖縄県民集会

8月5日開催予定が台風上陸で延期

沖縄の怒りを全国の怒りへ

岩国に強行搬入されたオスプレイは、9月中にも沖縄へ配備されようとしています。

アメリカ国内でも安全性と環境問題が指摘されている危険な軍用機を沖縄に配備し、全国各地の低空飛行訓練を実施しようとしています。

すでに、全国知事会も「安全性が確認できない現状では受け入れることはできない」旨決議を採択しました。

沖縄では県と全市町村の主催で「9.9 オスプレイ配備に反対する沖縄県民集会」が予定されています。

原水禁広島大会で沖縄連帯集会

8月5日、予定されていた沖縄県民集会は、



台風で延期されました。しかし、原水禁大会中の広島で連帯集会、東京でも同様の集会が開催されました。

9・9 沖縄県民大会と同時アクション

『国会包囲行動』～オスプレイ配備を 中止に追い込もう！

沖縄県では9月9日に、「オスプレイ配備に反対する県民大会」が開催されます。平和フォーラムや沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックなどで作る実行委員会は、県民大会同日の9月9日に、国会包囲行動を呼びかけます。

①日 時 9月9日（日） 11：00～
12：30

②場 所 国会周辺

③主 催 9・9 沖縄県民大会と同時アクション実行委員会

（平和フォーラムは呼びかけ団体として参加しています。）

④集合場所 平和フォーラム加盟組織は
「憲政記念館」前に集合
平和フォーラムの事務局が、
のぼり旗を持って待機

憲政記念館 東京都千代田区永田町

1-1-1

東京メトロ 「国会議事堂前駅」2番出口から徒歩7分

「永田町駅」2番出口から徒歩5分

⑤行動内容 全体企画では、国会正門向かいの通りから集まり、国会包囲をめざします。

平和フォーラム加盟組織は、憲政記念館側から国会包囲に合流します。

反核座り込み400回到達三多摩集会 三多摩平和運動センター

三多摩平和運動センターは、7月27日、立川市民会館ホールで「反核座り込み400回到達三多摩集会」を開催しました。1979年12月から開始、月一回三多摩各地をまわって実施、7月6日の立川駅前ですいに400回目となりました。33年にして400回を数えた行動を記念しての集会となりました。



集会では講師の神田香織さんが講談「チェルノブイリの祈り〜フクシマ、脱原発へ」を演じました。

反核座りこみ 400 回を振りかえって

出田光雄さんの報告

(前三多摩平和運動センター事務局長)

1979年12月6日の第1回座り込みから32年が経過し、33年目に入っていますが、雨の日も風の日も、暑い日も寒い日にも負けず、毎月6日から9日に、座り込みの成功のために尽力された各単産、地域の皆さんに敬意を表したいと思います。本当にご苦労様でした。

しかし400回で終わりというわけにはいきませんので、これからも人数の多少は別にして「核も戦争もない平和な21世紀の実現」を目指し、座り込みの継続に力を尽くされるようお願いしたいと思います。

まず座り込みの参加状況ですが、第1回の立川市役所中庭では40名が参加し、400回の59名を加えて12,100名が参加していますが、回数にカウントされない座り込みがあり、実際にはもっと多くの方が参加しているものと思っています。

参加人員の傾向をおおまかに見ますと三多摩労協時代の10年間は6,192人余、三多摩センター、三多摩労組会議の10年間は3,255人余、三多摩平和運動センター時代の10年間は2,185人となっています。

三多摩労協の時代は全電通や全通、金属機械など有力単産が加盟していましたが、連合結成後は、平和運動センターの組織人員は三多摩時代の半数程度であり、参加人員の減少は組織人員を反映したものであり、あまり悲観することではないと思います。

要は人数の多少にかかわらず、「継続は力である」ことを信じて、それぞれの持てる力を出していくことが大切のように思います。

これは余談ですが、長崎では毎月9日に平和祈念像の前で座り込みを実施しています。9日の座り込みは1982年からですので、長崎で300回記念の座り込みに三多摩からメッセージを送りましたが、その時期に三多摩では352回を迎えていました。

これから座り込みを始めた経緯を重点に報告したいと思います。

原水禁運動は1945年の広島、長崎の被爆問題で始まったわけではありません。アメリカが1954年3月1日、ビキニ環礁で実施した水爆ブラボー実験により、実験場から160キロも離れて操業していたマグロ漁船・第5福竜丸が大量の死の灰で被爆し、無線長の久保山愛吉さんが死亡しました。この事件を契機に「原水爆禁止」の署名運動が草の根レベルで燎原の火のごとく広がり、この署名運動背景に1955年第1回原水禁大会が実施され、この大会で「原水爆禁止日本協議会」が結成されました、しかし、原水協内部でいかなる国の核実験にも反対する勢力と共産党のソ連の核実験は世界の平和を守るものだとして支持する勢力との対立により混乱が続き、原水協は機能停止となりました。このような事態を受け、1965年、社会党・総評が中心となり「原水爆禁止日本国民会議」が結成され、以降8月4日から広島で、7日から9日まで長崎で「原水爆禁止世界大会」が開催され、今日に至っています。【次号につづく】

本報告は、長年三多摩地区の平和運動を牽引された、出田光雄さんの集会報告にもとづくものです。ご本人の了解を得て掲載しましたが、長文のため、次号以降に連載します。

砂川闘争など戦後の三多摩反戦運動の歴史を熱い思いで語っています。乞うご期待。

活動日誌

- 07.07～08 NO NUKES 2012
(12:00～千葉・幕張メッセ国際展示場)
- 07.11 沖縄・普天間基地へオスプレイ配備中止を
求める集会 (18:00文京区民センター)
- 07.16 さようなら原発10万人集会
(13:00～東京・代々木公園)
- 07.22 中越沖地震5周年集会 (柏崎市)
- 07.23 TPP問題連続学習会
(18:30連合会館)
- 07.27 反核座り込み400回到達三多摩集会
(18:30立川市民会館)
- 07.28～08.09
被爆67周年原水爆禁止世界大会
(7/28福島大会・8/4-6広島大会・
8/5国際会議・8/7-9長崎大会)
- 08.05 沖縄県民集会に連帯する東京集会
- 08.12 脱原発社会をめざす労働者集会
(13:30ティアラこうとう)
- 08.15 戦争犠牲者追悼・平和を誓う集会
(12:00千鳥が淵戦没者墓苑)



今後の日程

- 09.08 上関・祝島～自然とともに生きる未来
へ (13:00～東京・日比谷コンベンション
ホール)
- 09.09～10 平和フォーラム・オスプレイ配備
に反対する沖縄県民大会関連行動(沖縄)
- 09.09 オスプレイ配備に反対する沖縄県民大
会 (11:00～沖縄・宜野湾海浜公園)
- 09.09 沖縄県民大会と同時アクション「国会
包囲」～オスプレイ配備を中止に追い込
もう (11:00～東京・国会周辺)

- 09.09 再稼働反対・エネルギー政策転換・さよ
うなら原発!九州集会 (13:00～鹿児島・薩
摩川内市向田公園)
- 09.13 日朝平壤宣言10周年 日朝国交正常化
をめざす全国集会
(18:30～東京・星陵会館)
- 09.22 2012新潟水俣病現地調査
(09:00～新潟)
- 09.22 日本軍「慰安婦」問題に関する日韓交
渉／仲裁を前進させる国際シンポジウム
(14:00～東京・星陵会館)
- 09.05 原子力空母G・ワシントン配備4周年
抗議!空母の母港化撤回を求める集会
(18:30～神奈川・横須賀市ヴェルニー公
園)
- 09.26～27 平和フォーラム都道府県組織・中
央団体責任者会議(東京・日本教育会館)
- 09.27 憲法理念の実現をめざす第49回大会
(護憲大会)実行委員会(東京・日本教育会
館)
- 09.27 再処理とめたい! 経済産業省前行動
(18:30～東京・経産省別館前)
TPP 問題連続学習会第2回
(18:30～東京・連合会館)
- 09.30 核と人類は共存できない!さようなら
原発 JCO 臨界事故13周年集会
(13:30～茨城・水戸市駿雄教育会館)
- 10.06～07 きれいな水といのちを守る合成洗
剤追放第32回全国集会(北海道・函館市)
- 11.09～11 「生命の尊厳」をもとに、原発も基地
もない平和な社会へー憲法理念の実現を
めざす第49回大会(山口市)



NO!! オスプレイ